新 刊

□荒金正憲：**大分の自然に生きる植物，豊の国大分の植物誌** 461 pp. ¥4,900（送料何冊でも¥450）．佐伯印刷．

大分県の植物研究とりわけフロラ研究の第一人者である荒金正憲氏が上記の植物誌を出版された．掲載されたすべての種について，著者自らが撮影した美しいカラー写真がふんだんに使われている．これまでの植物誌がとかく植物目録や証拠標本の記録に片寄りがちであったことと対照的に，この植物誌は，著者の斬新な発想のもとに，随所に工夫がこらされており，実にユニークな植物誌に仕上がっている．

他に類をみない本書の特色として次の3点があげられる．いずれも著者が主力を注いだ部分である．(1)植生では17の植物群落を指標にして解説しているのでわかりやすい．(2)植物ごとの生育地をグループ分けして掲載しているので利用価値が高く，しかも大分県のフロラの全貌を把握するのに都合がよい．(3)県内の地域ごとに特徴のある，その地域のフロラの代表的な植物を取り上げて解説しているので，地域の特色がつかみやすい．巻末では絶滅種や絶滅危惧種，情報不足種について標本の写真を掲載して情報の提供をよびかけている．これは，フロラ研究が継続性をもち，双方向の情報が不可欠であることを著者が強く意識されているためであり，植物誌のあるべき姿を示している．

最近各県で出版が進められているレッドデータブックの普及版が内容的には似ている．しかし，生育が明確な種のほとんどについて，生育時の写真を網羅している点が本書の真価であり，レッドデータブックとは異なる．本書は今後出版される県単位の植物誌のモデルとなり得るであろう．

野草の写真集としても見ていてあきない．著者の撮影技術はプロの域にあり，また，写真は種の特徴をたくみにとらえている．すぐれた植物研究者ならではの力作揃いである．長い年月をかけないとこれだけ多くの優れた写真を集積することは不可能だろう．さらに重要な種については，標本に基づく分布図が各所にそえられており，フロラ研究の有用な情報になっている．

長い年月をかけて大分県のフロラに精通した著者にしかなし得ない偉業であることを絶賛し，日本のフロラに関心のある方々に購読されることをおすすめしたい．購入希望者は次に問い合わせられたい．荒金正憲 874-[redacted] 大分県別府市[redacted] TEL/FAX [redacted]；佐伯印刷株式会社 870-0844 大分県大分市古国府 1155–1 TEL 097–543–1211 FAX 097–554–4028. （路川宗夫）

□藤原陸夫，松田義徳，阿部裕紀子：**秋田県植物目録** 第10版．2002．秋田植生研究会．非売品．

昨年（2002年）植物地理・分類研究誌上に日本の都道府県別植物自然史研究の現状がまとめられた．改めて日本植物の多様性とこれまでの研究の積み重ねを具体的に知ることができ，興味深くかつ有益であった．一方，調査と研究のさらに必要なこともよく示されていた．東北地方各県でもフロラが充実してきて，岩手県植物誌（1970）から福島県植物誌（1987），新版山形県の植物誌（1992），青森県野生植物目録（1994），宮城県植物目録（2001）を経て本書まで一応近代的なものが出揃った．嬉しいことである．本書は藤原陸夫氏の「秋田県植物目録」第1版（1972）以来30年目の第10版で，藤原，松田，阿部氏の共著となっている．

藤原氏は学生時代に岩手県五葉山のフロラを調べ，ゴヨウザンヨウラクを見つけだした．秋田県内各地の高校で教育に従事し，数年前に長野県自然保護研究所に移られたが，長い間の秋田県のフロラ研究を「秋田県植物分布図」などにまとめてこられた．本目録によれば，秋田県のシダ植物と種子植物は189科836属2321種（帰化種364を含む）38亜種203変種151品種よりなるという．内容は学名，和名，自生・帰化・栽培の区別，秋田県における絶滅危惧種のカテゴリー（8段階に表示）が示されている．新分類群一覧として追加を含む19分類群（3品種と16雑種）の学名だけが載せられているが，早い機会に正式に発表されるよう希望する．（大橋広好）